



Zephyros⁸⁷

スペインのイメージ

版画を通じて写し伝わるすがた

2023年7月4日[火]－9月3日[日]



1

- 1 フランシスコ・デ・ゴヤ〈ロス・カプリチオス〉16番
《神よお赦し下さい、それが母親だったとは》
1799年 エッチング、アクアティント、パーニッシャー、
ドライポイント 国立西洋美術館
- 2 作者不詳《メメント・モリ》17世紀 木版
国立西洋美術館
- 3 マリアーノ・フォルトゥーニ《隠遁者》1869年
エッチング、アクアティント 国立西洋美術館
- 4 エドゥアル・マネ《内戦》1874年 リトグラフ
国立西洋美術館



2



3



4



5



6

5 ラモン・カザス《「アニス・デル・モノ」のポスター》
1898年 カラー・リトグラフ 国立西洋美術館

6 ホアキン・ソローリャ《水飲み壺》1904年 油彩/カンヴァス
国立西洋美術館

国立西洋美術館は、スペインの大画家フランシスコ・デ・ゴヤ（1746-1828）の四大版画集を初版ですべて収蔵し、それらに基づいて1999年、2011年とゴヤの版画を中心とした展覧会を開催してきました。今回の「スペインのイメージ：版画を通じて写し伝わるすがた」展は、そうした伝統に基づきながら、ゴヤだけにとどまらない、スペインに関するより幅広い時代とジャンルの版画をご紹介します。

スペインは、今でこそ世界中の観光客から高い人気を誇る国ですが、歴史的には「ピレネーの向こうはアフリカである」と揶揄されたほど、他のヨーロッパ諸国にとって未知の、馴染みの薄い異国でした。しかしナポレオンの侵略とスペイン独立戦争（1808-14年）を契機にヒトとモノの本格的な往来が始まり、ロマン主義の時代にスペインは他のヨーロッパ諸国からそのエキゾチックな魅力を本格的に「発見」されてゆきます。フラメンコ、闘牛、アルハンブラ、ドン・キホーテ…我々が思い浮かべるスペインの典型的な「イメージ」の多くは、19世紀にこの国を訪れた外国人旅行者たちによって確立されたものでした。そしてそうしたイメージの形成、流通に大きな役割を果たした媒体が、大量に刷ることができ、簡単に持ち運びができた版画でした。

本展は、スペインに関わる版画制作の史的展開を17世紀初頭から20世紀後半までの長大な時間軸で概観し、写し伝えることのできる版画が、スペインの文化・美術に関するイメージの形成や流布にどのように貢献したか、約240点の作品から探るこれまでにない企画です。リベラからゴヤ、フォルトゥーニ、ピカソ、ミロ、ダリら巨匠たちの仕事を含んだスペイン版画の系譜を辿るに加え、ドラクロワやマネなど19世紀の英仏で制作されたスペイン趣味の作品を多数紹介します。また、本展は国立西洋美術館の収蔵品を中心に、国内の約40箇所から作品を拝借し、今日までの日本における（とりわけ20世紀の）スペイン美術の受容と豊かなコレクション形成の様相を浮き彫りにすることも試みます。

本展に出品される国立西洋美術館の所蔵品の多くは、近年新たに収集した作品です。これまで当館はゴヤとピカソ以外のスペイン版画をほとんど収蔵していなかったため、2015年以降、その空隙を埋める収集活動を続けてきました。ラモン・カザス（1866-1932）の《「アニス・デル・モノ」のポスター》やマリアーノ・フォルトゥーニ（1838-1874）の版画、フランス人画家エドゥアール・マネ（1832-1883）のスペイン主題の版画など、その成果の一部を本展で初披露します。また、昨年度収蔵したスペイン人画家ホアキン・ソローリャ（1863-1923）の油彩《水飲み壺》も、画家の没後100年となる今年、本展で初公開いたします。あわせて御覧いただければ幸いです。 [国立西洋美術館主任研究員 川瀬佑介]

美術館の悪ものたち

2023年6月27日[火]－9月3日[日]

国立西洋美術館には「悪ものたち」がたくさんいます。もちろん、職員のことではありません。当館が所蔵する作品のなかの話です。お金に目がくらむ若者、若い女性にうつつを抜かし、あるいは嫉妬する老人、盗人、等々。悪魔や魔女といった悪を象徴する存在や、その手先たちもうごめています。そして私たちが何よりも恐れる「死」は、いかにも悪ものらしい憎々しげな骸骨として、あらゆる時代の作品に登場します。

これら（人間に限らぬ）悪ものたちは忌むべき存在のほずですが、画面のなかでは個性あふれる、時にコミカルな姿で表わされ、しばしば善人や天使、聖人たちよりも魅力を放っています。私たちは描かれた悪ものたちに、芸術家の空想のはばたきを感じ、楽しむことができます。

ところで、はるか昔に描かれた「悪」や「正しくないこと」には、現代と共通することもあれば、理解に苦しむこともあります。人を殺したり、嫉妬したりといったことは私たちにしても「悪」や「良くないこと」ですが、たとえば「大食い」が罪とされるのには違和感を覚えるのではないのでしょうか。善悪の線引きは、不変の場合もあれば、時代や地域、つまり社会によって揺れ動く場合もあります。悪ものたちの多様な姿を通じて、かつての西洋の価値観の一端にも触れてください。版画数十点に加え、油彩数点を展示予定です。

[国立西洋美術館学芸課長 渡辺晋輔]



アルブレヒト・デューラー《騎士と死と悪魔》1513年 エングレーヴィング 国立西洋美術館

川崎重工と国立西洋美術館、 オフィシャルパートナー契約を締結

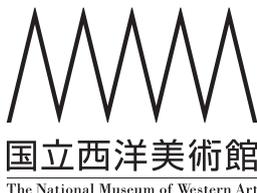


記者発表会にて、左から
田中正之（国立西洋美術館長）、橋本康彦（川崎重工株式会社・代表取締役社長執行役員）

この春、川崎重工業株式会社（以下、川崎重工）と国立西洋美術館（以下、当館）は、オフィシャルパートナー契約を締結しました。両者は、パートナーシップを通じて「アートの力を活かした豊かな社会づくり」を目指します。

当館の基礎である「松方コレクション」を築いたのは、川崎重工の前身である川崎造船所の初代社長・松方幸次郎です。こうした歴史的な深い結びつきに加え、西洋美術を通して、人々の心の豊かさの醸成に貢献してきた当館の活動に川崎重工が共感することで、このたびオフィシャルパートナー契約を締結することとなりました。なお当館にとって松方幸次郎に由来する包括的オフィシャルパートナー契約の締結は、1959年の設立以来初の取り組みです。

川崎重工と当館は、所蔵作品（常設展）の無料観覧日「Kawasaki Free Sunday」の実施（原則として毎月第2日曜日）のほか、映像やデジタル技術を活用したコンテンツの拡充、そして所蔵作品をより深く知るための鑑賞体験プログラムの充実といった取り組みを通じ、より多くの人に広く美術に触れる機会を提供し、人々の豊かな暮らしと心の醸成に一層寄与することを目指します。ぜひご期待ください。



Kawasaki

Official Partner

川崎重工は国立西洋美術館のオフィシャルパートナーです

Collection in FOCUS | コレクション・イン・フォーカスについて

Collection
in
FOCUS

2022年4月のリニューアル・オープン時より当館では、常設展内で「Collection in FOCUS」と題した企画を試みています。これは、中世末期から20世紀なかばまでの西洋美術の諸展開を編年史的にお見せする常設展示室のなかに、いくつかの特集コーナーを設け、当館研究員のさまざまな専門を活かしながら、ひとつない複数の所蔵作品に「焦点 focus」をしぼり、資料などとあわせてテーマ展示をおこなうというものです。昨今、国内外の美術館では、常設展全体がテーマ展示の場となっている場合が少なくありません。いっぽう、当館においてあらたに実践しているのは、あくまでも年代順に作品を並べるオーソドックスな展示法は保ったまま、より柔軟にテーマ展示を各所に差し込むやりかたです。2023年3月以降は、5つの「Collection in FOCUS」を常設展内にご用意しています。美術史的な観点に立って作者/作品のありようを読み解くコーナーはもちろん、保存修復、保存科学、教育普及を専門とする研究員たち

の日々の活動から生まれた特集展示もあります。それらは、多様な専門職をもつ研究員が集っている国立西洋美術館だからこそ可能になった展示です。ちなみにわたし自身は、ドイツの印象派を代表する画家のひとり、ロヴィス・コリントの絵画を結節点として、ふだんは隣りあって配されることのない作品たちを錯時的に遭遇させ、その布置から見てくる作品間の関係を問うテーマ展示を展開しています。いつもとは少しちがった目線で、国立西洋美術館の所蔵作品を見つめ直していただけたら幸いです。

[国立西洋美術館主任研究員 新藤淳]



「植生へのまなざし、絵画への距離——
ロヴィス・コリント《オークの木》を結節点として」
展示風景

絵具層の下に隠された下描きを視る

油彩画やテンペラ画において、下描きは絵具で覆われて見えなくなってしまうものです。かつて下描きは、制作途中で放棄された作品や、上に塗られた薄い絵具層が経年とともに透明になった場合においてしか、観察することができませんでした。しかし現在では赤外線反射撮影法(Infrared reflectography:IRR)によって、視ることが可能になりました。これは、作品に近赤外線を照射し跳ね返ってきた近赤外線を特殊なカメラで検出する方法で、当館では約4年前から株式会社ニコンの協力のもと撮影を進行中です。高精細な画像を得るために、1作品を20-30分割して撮影したうえで合成しています。

今回はルネサンス期制作の3作品について、作品の横に赤外線反射画像を並べ、完成作品と下描きを比べられるようにしました。当館で、このような展示をするのは初めてです。展示作品のうちの1つ、クラリーナ作品の一部をここに示しますが、耳の位置には下描き段階で変更があったようです(赤矢印は変更前を示す)。また、髪型は絵具を塗る段階で一部変更されています(青矢印)。遠い過去の時代に生きた画家の制作

過程を知ることができるなんて、わくわくしませんか?!

大胆に素早く、あるいは慎重にゆっくりと描かれた下描きの線があり、あたりをつけただけの大きっぱな描写もあれば細部まで描きこまれた描写もあります。これら普段は決して視ることができない下描きを、あなたの目で視にいらしてください。

[国立西洋美術館特定研究員 高嶋美穂]



ルカス・クラリーナハ《ゲッセマネの祈り》の一部拡大。赤外線反射画像(左)と通常光可視光線での画像(右)

Programs

2023年夏始動!

ふかぼりCollection in FOCUS

特集展示「Collection in FOCUS」に連動したプログラムを2023年度夏より試行いたします。「ふかぼりCollection in FOCUS」と題する本プログラムでは、展示をご案内するギャラリートークだけでなく、展示室でお見せしきれなかった資料の紹介・作品の材料やサンプルの実見・準備時の裏話など、当館研究員たちが行う様々な調査が垣間見えるレクチャーや体験を提示します。少人数制プログラムならではの試みで、当館活動にもう少し深く触れてみたいと思っただけなら、まさに一歩踏み込んで「ふかぼり」していただく機会になれば幸いです。2023年度は下記のとおり実施を予定しています。各内容の詳細・参加申込は当館webサイトで随時ご案内いたします。

[実施予定プログラム]

| 1 | 7月1日[土] 17:30-19:00

[みわたす] 植生へのまなざし、絵画への距離——ロヴィス・コリント《オークの木》を結節点として
講師: 新藤淳(主任研究員)・植月智子(2022年度インターン/早稲田大学大学院博士後期課程)

| 2 | 7月30日[日]・8月22日[火] 10:00-12:00 ※各回完結・同一内容

[まもる] 国立西洋美術館における作品の保存修復——カリエール《自画像》を例として
講師: 邊牟木尚美(主任研究員)・本保知彩(研究補佐員)

| 3 | 9月22日[金] 18:00-19:30

[あばく] 絵具層の下に隠された下描きを視る
講師: 高嶋美穂(特定研究員)

| 4 | 10月22日[日] 10:00-11:00

[つなげる] ロイヤル・アカデミーにおける先駆者たち——カウフマンとナイト
講師: 浅野菜緒子(特定研究員)

[CAFÉ すいれん]

営業時間：10:00-17:30 (食事11:00-16:45 | 喫茶10:00-17:15) / 金・土曜日10:00-20:00 (食事11:00-19:10 | 喫茶10:00-19:30)

[ミュージアムショップ]

彩飾写本(内藤コレクション)を高精細ジークレー印刷により複製いたしました。内藤コレクションは13世紀から16世紀初頭を中心にイングランド、フランス、ネーデルラントなど多岐にわたる地域の写本を蒐集した内藤裕史氏により2016年に当館に寄贈されたもので、展覧会のたびに多くのファンを得てきました。商品化のリクエストの要望が数多く寄せられる所蔵作品のひとつです。

ご紹介する複製画は、高精細ジークレー印刷にさらに特色刷(金色)を重ねたものです。印刷技師が一枚一枚手作業で仕上げています。八つ切りサイズの額はいろいろな場所に合わせやすい大きさです。存在感は十分にあり、特別な空間を演出してくれます。プレゼントや記念の品としてもおすすめです。



特色刷複製画《時禱書零葉：受胎告知》リュソンの画家 フランス 1405-10年頃
商品サイズ：[額] 約36.2×29.7×2cm | 価格：22,880円(税込)

- 館内ショップのほか、オンラインショップでもお求めいただけます。
- 特色刷を施さない高精細ジークレー印刷の複製もご用意しています(税込9,680円)。

オンラインショップ

<https://www.nmwatokyo-shop.org>



ミュージアムショップ公式
Instagram
@nmwatokyo_shop



展示カレンダー [企画展示 / 常設展示] 2023年6月-9月

6月 [Jun.]	7月 [Jul.]	8月 [Aug.]	9月 [Sep.]
	常設展		
全館休館 6月12日 [月]	[企画展] スペインのイメージ：版画を通じて写し伝わるすがた 7月4日 [火] - 9月3日 [日]		全館休館 9月4日 [月]
↓	[小企画展] 美術館の悪ものたち 6月27日 [火] - 9月3日 [日]		↓
6月26日 [月]			9月18日 [月・祝]

[開館時間] 9:30-17:30 (金・土曜日 9:30-20:00) *入室は閉室の30分前まで

[休館日] 月曜日(月曜日が祝日又は祝日の振替休日となる場合は開館し、翌平日休館)、展示替期間
年末年始、臨時休館日

[臨時開館・臨時休館のお知らせ]

臨時開館：2023年8月14日 [月]

臨時休館：2023年6月12日 [月] ~ 6月26日 [月] (展示替え及び展覧会開催準備のため)、
9月4日 [月] ~ 9月18日 [月・祝] (展示替えのため)

[常設展無料観覧日]

5月18日(国際博物館の日)、6月11日(※)、7月9日(※)、8月13日(※)、9月3日(※)

※国立西洋美術館と川崎重工業株式会社は、2023年3月17日 [金]、パートナーシップ契約を締結しました。本パートナーシップによる事業として、川崎重工の提供により、2023年4月以降の原則毎月第2日曜日を「Kawasaki Free Sunday」として常設展無料観覧日といたします。

[常設展]

国立西洋美術館は、松方コレクションが核となって1959年に設立された、西洋の美術作品を専門とする美術館です。

中世から20世紀にかけての西洋絵画と、ロダンをはじめとするフランス近代彫刻などを本館、新館、前庭で年間を通じて展示しています。

- 展覧会名、会期、展示内容等は変更の可能性があります。最新の情報は国立西洋美術館公式ホームページをご確認ください。

